

S i m o n e W e i l

いま、シモーヌ・ヴェイユを読む

大人のための100選

令和8年度米子市立図書館文化講演会

とっとり県民カレッジ連携講座

【日時】

令和8年

11 / 21 (土)

13:30 ~ 15:00

(開場 13時)

【講師】

大野 秀氏

元米子市立図書館司書

シモーヌ・ヴェイユ(1909~1943) リセ(高校)の哲学教師を務めながら、炭鉱労働者たちとデモ行進するヴェイユ。反スターリン・反 Kommunismus の論文を書き上げた後、未熟練工として工場労働に飛び込んだヴェイユ。キリストの神秘体験を繰り返してもなお洗礼を拒んだヴェイユ。過酷なほどに「真理」を求めた彼女は、いったいなにを目指していたのか。



【会場】

米子市立図書館 2階 多目的研修室

定員 80 名・入場無料・要申込

【主催・申込・連絡先】

〒683-0822 (米子市中町8)

・カウンター ・お問い合わせフォーム

・電話: 0859-22-2612

・ファックス: 0859-22-2637



●都合により急遽中止となる場合があります。●お車でご来場の際は米子市役所前駐車場をご利用ください。無料処理をしますので駐車券は会場へお持ちください。

●図書館カウンター、ファクスでの申込は下記申込用紙にご記入ください。●個人情報は本行事に関する事業および連絡に関すること以外使用いたしません

参加申込用紙「大人のための100選」11月21日(土)13:30~15:00

氏名	電話番号(携帯電話)	受付日時(主催者記入)
----	------------	-------------

【大人のための100選とは】

「大人のための100選」は、〈新しい読書の楽しみ〉を提案するブックガイドとして、2017年11月の読書週間に誕生しました。公立の図書館として一般向け推薦図書の設定というのはあまり例のない試みでした。

選定を担当したのは、当時米子市立図書館の司書であった大野秀氏です。自身が読んだ本の中から人文系を中心に、幅広く哲学、現代思想、語り継ぎたい戦争など、とっつきにくそうだが扉を開けると引き込まれそうになる作品群を選びました。「難しいと思われているジャンルの本でも、こういう読み方をすれば面白いと伝えたい」と翌年から講演会を開催し、100選の中から数冊ずつピックアップして、著者や訳者の略伝、成立事情などを新たな切り口で解説していきました。そして今回は7回目となります。

読むジャンルを広げてみたい方、普段読書から離れている方、学生の方、読書の秋、名著にふれてみませんか。

【過去の講演会テーマ】

第1回「新しい 読書の楽しみ 発見!!～レヴィ・ストロース『野生の思考』～」平成30年11月

2回「ヘーゲルそしてニーチェへの誘い～長谷川宏、生田長江の翻訳から～」令和 元年 //

3回「信仰を読む～・清沢満之の思想・イエスという男～」// 2年 //

4回「パレスチナの歴史～E. サード『オリエンタリズム』を読む～」// 3年 //

5回「ボルヘス、マルケス ラテンアメリカ文学を読む～」// 4年 //

6回『『網野史学』を再読する～『異形の王権』～』// 5年 //

【シモーヌ・ヴェイユについて】

(1909－43) パリ生まれ。パリ高等師範学校卒業。フランスの思想家。その生涯と遺作は不朽の思想として世界の文学者、思想家に深い感銘と影響を与えた。

【主な作品紹介】



『自由と社会的抑圧』：近代社会の構造的な不正と抑圧の原因とはなにか、そして人間が自由であるための条件とは。全体主義・マルクス主義をとともに批判の俎上にあげつつ「自由な社会」を希求する誠実で真摯なその考察は、今なお色褪せることない現代社会の指針となろう。初期の代表作-岩波文庫-



『工場日記』：哲学教師としてリセで教鞭を執ったのち、自ら女工の生活に飛び込んだ、ヴェイユ。苛酷な労働の中に生まれる思考と感情を書き留めた精緻な工場就労の記録。-ちくま学芸文庫-



『神を待ちのぞむ』：あらゆる価値観が崩壊していくいま、“信じること”はいかにして可能だろうか？ 教会をこえて、宗教をこえて、信仰のかたちをとった、シモーヌ・ヴェーユの恩寵のことば。-春秋社-



『重力と恩寵』：たとえこの身が泥の塊となりはてても、なにひとつ穢さずにいたい。戦火の中でも究極の純粋さを志したシモーヌ・ヴェイユの代表作。深い内省の跡を伝える雑記帳からの新校訂版-岩波文庫-



『根をもつこと』：根をもつこと、それは魂のもっとも切実な欲求であり、もっとも無視されてきた欲求である。― 戦間期の混乱のなか、個人、共同体、国家のあり方をとった、シモーヌ・ヴェーユの魂のことば。-岩波文庫-